

令和5年度生野区区政会議（第1回こどもの未来部会）
主なご意見等（要約）と区のお考え方、対応

開催日：令和5年6月14日（水）

開催場所：生野区役所 5階 502・503会議室

ご意見等（要約）	区のお考え方、対応（要約）
オンデマンドバス、生野区役所が企画をして狙ったとおりにそのように展開していることについては、本当にすごい企画でよかったと思っているので、区政会議なり区役所さんたちの努力というのをここで実感した。	この度いただきましたご意見につきましては、大阪メトロと共有させていただきます。
オンデマンドバスについて、利用する人が増えていてよいと思うが、さらに活用してもらうために、乗り方や利用のしかたをもっと宣伝すべき。気軽に情報提供ができるように、たとえば名刺サイズのカードにORコードをつけたものなどがあると周知が広がると思う。	
オンデマンドバスの配布物はあるが、子ども用ではなくて一般用で、停留所が増えて新しく印刷されたものもあるので、それを小学校・幼稚園用にアレンジして配るのもいいアイデアだと感じる。	
今は広報紙でも、とても明るい感じで、地域住民としての外国人の人の紹介の在り方だとか、こういう国から来ているので、こういう特色があるので、こういうように生活していますといったことが多く紹介されるようになったことがとても喜ばしく、今他の地域で教育関係の仕事をしている者としては、「生野区はこういうことがありますよ」と宣伝ができるようになったこともうれしい。	生野区は区民の5人に1人が外国人住民、そしてそのルーツは約60の国や地域にわたるグローバルなまちで、日常から外国人住民の方々と接する機会が多いまちです。そういった日常の暮らしや文化などを広報紙などにより広く区民に知っていただくことで、相互理解もより深まり、区内だけでなく、区外にもグローバルなまち、共生のまちとして広く知っていただくことにつながり、ひいては区の魅力向上につながるようにと期待しております。
生野区がやってることは実はすごい。そのことを宣伝をしながら、子どもたちが、今住んでる人が出ていかないようにするのももちろん、出ていったときに戻ってこれるようにするところも大切かと思う。	いただいたご意見のとおり、区に暮らす方々が区外に転出した後も、また区に戻って暮らしていただけるようなまち、住みたい、住み続けたいまちと思っていただけるように、多様な魅力資源をもつ生野区のまちの魅力向上とプロモーションを進めてまいります。
生野区ブランドの認知度を高めることは大切であると思う。	
生野区には、宝物はいっぱいあると本当に思っている。私たちの持っている宝を最大限活用し、広がってるということが分かるようになればと思う。	
学校の再編の際には、通学路の安全も考慮してほしい。	学校再編に伴う通学路の安全対策につきましては、対象校の保護者・地域の方々等で構成する「学校適正配置検討会議」において、実現可能な対策を検討してまいります。 また、その検討内容を踏まえ、本市関係部局や警察等と連携を図り、新たな学校の開校までに通学路の安全対策を実施してまいります。

ご意見等（要約）	区の考え方、対応（要約）
子どもの交通安全について、親と学校と地域が考えていく必要があるが、まずは親がもっとしっかり子どもにルールなどを教えるべき。	親への交通安全に関する啓発につきましては、小学校の入学説明会と3歳児健康診査において行っております。 また、子どもに対しては、新学期に朝礼での啓発活動を実施しております。また、子どもたちが楽しんで防犯・交通安全意識を持ってもらえるよう防犯標語「おこのみやき」運動、ガチ☆メン大会も開催しております。 今後も引き続き、様々な啓発活動を通じて、子どもたちの交通安全意識向上を図ってまいります。
学校の授業の後、そのまま補講授業というかたちで、学習力をアップさせたり、宿題ができたりするとよいと思う。塾に通わずとも、引き続きその場所で移動せずに自分のモチベーションを維持したまま時間を過ごすことができ、帰宅したら自分のオフの時間を過ごすというような環境ができればと思う。	授業後の課外学習につきましては、地域ボランティア等のご協力をいただき放課後学習の取り組みをしている学校があります。 また、区役所では「民間事業者等を活用した課外学習授業『いくの塾』」により、生野区内中学生及び義務教育学校後期課程生に向けた、放課後に学校施設の教室等を会場とした課外授業を実施しております。
教育について、勉強中心が行き過ぎているように思う。もっと生きていくうえで必要な学びの場があるのではないかな。	生野区では区内市立小中学校および義務教育学校へ、未来を生き抜く力の育成の視点に立ち、「生きるチカラまなびサポート」事業により、性・生教育とキャリア教育の出前授業を行っております。
生野区はものづくりや町工場など、伝統的な素晴らしい技術がある。そういった財産を最大限に生かしながら、障害のある方や外国人、子どもたちが学び、働き、成長していけるまちになっていけたらといいと思う。	生野区では、子供会育成連合会と共催で、区内の町工場のご協力を得ながら、お子様にもものづくり楽しさを知っていただく「こども工作教室」を毎年開催しております。また、生野区には、外国の方を積極的に採用している町工場や障がいをお持ちの方の声を聞いて商品開発を行っている町工場など魅力的な町工場がたくさんありますので、引き続き、ものづくり百景を活用しながらものづくりの魅力を発信してまいります。
子ども×ものづくり、子ども×オンデマンドバス、子ども×経験カリキュラム、その辺のところを含めながら、子育てがしやすい、教育が支援しやすいというまちづくりを私たちが考えていくことで、子育てが終わり教育が終わった人が、大人になってまたこの生野区へ帰ってきて子どもを産んで育てる。そんなルーチンがうまくいく生野区になることがこの部会として期待していることかと思う。	いただいたご意見のように、生野区には多様な分野にわたってたくさんの方の魅力資源が存在・潜在しております。それらを行政や区民のみなさんが発掘し、ともに磨き上げていくことで、次世代を担う子どもたちにも伝わり、それが将来また生野区で暮らしていくきっかけにもなり、生野区が持続可能なまち、発展していくまちにつながっていくものと認識しておりますので、今後も部会での委員のみなさまのご意見・ご議論を期待しております。